



Ensemble ~ リアルタイムコンプライアンスソリューション ~

序章

いつの時代でも、ビジネスを効率的に行い確かな価値を顧客に提供することは、企業の成功を保証するものである。しかし、今日、企業はそれ以上のことに取り組まなければならない。例えば、過去数年、企業統治や規制へのコンプライアンスに対する問題に適正なリソースを専任させることは、米国企業にとって益々重要になっている。新しい規制と投資家による企業監視が増大した結果、あらゆるタイプの企業は、社内コントロールを厳しくしている。さらに、そうした規則を守るために、一貫した管理可能なアプリケーションの構築を試みている。

ほとんどの企業は、規制やコンプライアンスの問題に苦慮している一方、金融サービス企業は、特にそれによる大きな負荷を負っている。Sarbanes-Oxley や Patriot Act などの新しい規制は、残念ながら、現在進んでいるシステム構築や新コンプライアンスプロセス管理のための出発点にはなっていない。なぜなら、それら規制のほとんどは、概して新しく企業がそれに取り組んだとしても、常に進化し続けるものであるからだ。

目指すソリューション(「ポイント」、「スタンドアロン」ソリューションとして知られる)を決め、素早く特定の法令に準拠しようとする企業がある。このことは、企業が特定の問題の解決を助ける一方で、結果として、コンプライアンスの要求を効率的に管理する企業力を制限することになる一連のスタンドアロン(または“閉ざされた”)コンプライアンスソリューションを作り出して終わる。こうした結合されていないコンプライアンスソリューションは、企業統治やコンプライアンスの全ての問題を処理する有用な技術の利用を阻害している。

この白書は、金融サービス業者が現在直面する規則とコンプライアンスの問題について考察する。伝統的なスタンドアロンソリューションと一般的な EAI(アプリケーション統合)ソリューションの限界について検証し、インターシステムズ社の Ensemble の検討を提案する。Ensemble は、ビジネスをリアルタイムにモニタし、既存アプリケーションとレポートをすばやく統合するための戦略的コンプライアンスソリューションを、迅速に構築することのできるプラットフォームである。

コンプライアンスの現在の状況

過去 2 年余り、優良企業であることは新しい意味をもつ。全てのタイプの企業は、今や、監視や法遵守のために、より多くの時間とリソースを割く必要がある。特に、金融サービス業者は、以下のような、SEC や他の規則、法律の遵守を求められている。

- **The Patriot Act**、反マネーロンダリング、OFAC リスト、顧客 ID、SAR レポート、その他多くの問題に関連した一連のコンプライアンス要求を含む。
- **SEC Rule 17-a4**、電子メールやインスタントメッセージコンプライアンスに焦点
- **Sarbanes-Oxley**、より厳しい企業統治を目指すもの
- **Mutual Fund Trading Compliance**、有価証券に関する規制を厳しくするもの

残念ながら、これは、最終的なリストではなく、アナリストたちのほとんどは、新規規制が次々と発行されることで一致している。それらは、Basel II、仲介業者の純資本要求の変更(Rule 15c3-12 に対する修正案)や、Patriot Act 規則の追加などを含む可能性もある。

金融サービス業者は、こうした規制に従うために、カスタム開発プロジェクト、既存システムの拡張、ベンダからのシステムの購入など、様々な方法を選択している。しかし、多くの企業は、各コンプライアンス要求に対して個別に対応している。導入したソリューションは、しばしば機能的には冗長な閉じたシステムで、部門特有のものである。多くの場合、こうしたソリューションは、検索しバッチによりレポートを生成するよう付加されたもので、リアルタイムのインフラを構築するものではない。さらに、規則変更がなされると、既存のシステムはその新規制に合わせて拡張または増強する必要がある。

問題が起こる前に対策する方向にシフトするにつれ、企業は、事実報告の後に対応するのではなく、防御する方向へと、現行のソリューションを拡張しビジネスプロセス戦略を変更することに苦労している。この努力は大きな負荷である。多くの企業は規則遵守維持のために苦労しており、コンプライアンスのためのフレームワーク構築の試行を放棄している。

金融サービスが直面する問題

金融サービス業者にとっての最大の問題は、総構築コストを最小限に抑えながら、期限を守って、多くのコンプライアンスソリューションを構築しなければならないということである。複数のシステムをもつということは、各ソリューションで生成されるデータ移行などもあり、技術スタッフやコンプライアンスアナリストにとって大きな負担となる。

多くの企業は、第一世代の Patriot Act や SEC Rule 17-a4 ソリューションをもっており、Sarbanes-Oxley コンプライアンスに対しては、異なるアプローチを考慮している。ミューチャルファンドを販売する会社は、取引アクティビティを追跡するためにシステムを急構築している。起きた後で違反をレポートするのではなく、将来の違反を防止する方向転換努力は既に始まっており、これには、これまでのビジネスプロセスを変更する必要がある。

これらのコンプライアンスソリューションには、以下のような共通のアーキテクチャコンポーネントがある。

- ポータルのようなユーザインターフェース
- ビジネスプロセス定義
- 警告とフィルタリングのメカニズム
- 社内構築システムとパッケージソフトウェアのアダプタ
- アクティビティモニタリング(ほとんどは、バッチで行われる)

しかしながら、これら共通コンポーネントが再利用されることは少ない。これにより、結果としてコスト高で個別ソリューションになっている。ある規則準拠のためのレポーティングシステムを早急に構築しようとする企業は、そのソリューションが拡張性がなく、社内の他部門に応用できないと気付くことが多い。事前にコンプライアンス違反を検知する真のリアルタイムアクティビティモニタリングソリューションを構築する時点で、既存のソリューションを廃棄することはよくあるのである。

戦術的アプローチの限界

優れたソリューションは、1つの問題を解決するのみではなく、将来の問題も解決する。残念なことに、金融サービス業者が構築または設計するコンプライアンスソリューションは、1つの問題のみを解決することに特化しているものが多すぎる。現規制が将来変更される、あるいは新規の規制やコンプライアンス要求に対応する簡単でコスト効率のよい仕組みを提供していない。

特に、ほとんどの組織では、規制要求に対応するために、2つの戦術的アプローチのうち、既に1つは試みているのである。

ベンダ提供のコンプライアンスソリューション: 既存のパッケージソリューションは、コンプライアンスアクティビティを閉ざされた技術の中に追いやっている。共有コンポーネント(ユーザインターフェース、警告メカニズム、フィルタ、アダプタなど)の再利用ができないことで、コストが上がる。多くの企業は、パッケージソリューションはリアルタイムアクティビティのレポートをみる機能といったクリティカルなビジネス要求には応えられないと理解している。これらパッケージソリューションと既存の取引、リスク管理、業務インフラとを統合するのは、多くの場合複雑で不完全である。

伝統的な統合ソフトウェア: これまでの EAI(企業アプリケーション統合)ソフトウェア製品は、コンプライアンスプロジェクトの共通フレームワーク要求に、ある部分ではサポートしているが以下の2つの分野では機能不足である。

リアルタイムデータアクセス - データ格納はこれまでのデータベースに依存し、ライブデータのリアルタイムモニタリングができない。

簡単な管理 - 多くの EAI 製品は、別々の製品スイート(寄せ集め)であり、一緒に使用する前に統合しなければならず、構築に複雑さが加わる。そうした技術の「壊れやすい」ソリューションの集合体となりやすく、管理が困難で信頼性の問題を引き起こす。

これらの欠点に加えて、多くの EAI 製品ベンダは、グラフィカルなモデリングツールがビジネスプロセスをモデル化するのに充分だと思込んでいる。しかし、コンプライアンスソリューションの要求は、多くは複雑で、単にグラフィカルツールのみでは処理できない。ビジネスルールを処理するためにカスタムコードを書く機能は、成功ソリューションのためには不可欠である。

概して、こうしたコンプライアンスへのアプローチは、戦術的利益をもたらすが、ほとんどの組織にとって、新規制に従う、または変更に対応するソリューション拡張をしようとした時、すぐに負債となる。金融サービス業界は、規制が多く、市場投入枠が制限されており、非常に競争性が高いため、戦術的なコンプライアンスソリューションの欠点に特に注意を払う必要がある。

戦略的アプローチ - Ensemble

現在そして未来のコンプライアンス要件や規制変更への対応には、時間経過とともに変更できるよう設計されているソリューションが求められる。よいソリューションは、ベンダが提供するコンプライアンスソリューションの最良な側面(主に特定の問題解決に適用され非常に素早く導入できる)をもち、それをこれまでの EAI 型ソリューションの最良の側面(広範なアプリケーションを統合する機能をもち、広範なアプリケーションに渡るプロセスを生成する)と結合されたものである。リアルタイムデータアクセス、一貫した管理とレポートを加えることで、戦略的コンプライアンスシステムの基盤が整う。

これは、正にインターシステムズ社が Ensemble によって構築するものである。Ensemble は、金融サービス組織に、コンプライアンスプロセスとアプリケーションの作成と管理のための包括的(しかし柔軟性に富む)プラットフォームを提供する。これまでの

EAI 製品とは異なり、Ensemble は、より敏捷なカスタムソリューションの迅速な開発という点では、パッケージソリューションよりも優れる。しかも、よりコストを抑えて、シンプルで、短時間に実装できる。Ensemble は、また、既存のコンプライアンスアプリケーションを、より広範で包括的なコンプライアンスソリューションに拡張、統合するための優れたプラットフォームである。

以下の特徴により、Ensemble のユーザは戦略的コンプライアンスソリューションを迅速に作成することが可能である。

リアルタイムデータアクセス: Ensemble のパワフルなアーキテクチャ、確たる拡張性、およびトランザクショナルビットマップインデックス技術により、リアルタイムコンプライアンスソリューションを開発することができる。既存のバッチやレポーティングソリューションを、リアルタイム警告、通知、レポートを提供するよう拡張可能だ。Ensemble により、実行時に取引や支払いに対するコンプライアンスチェックを行い、コンプライアンスルールに合致しないトランザクションを停止するようなソリューション構築が可能である。これら全ては、コンプライアンス違反をチェックしている同じトランザクションデータに対して複雑なレポートを走らせながら行うことができる。

迅速な統合: Ensemble の統一されたグラフィカルな XML およびコードベースの開発環境により、ビジネス分析のためのモデリングやビジネスプロセスの自動化を加速させることができ、かつ、既存データと機能を最適化するコンポジットアプリケーション開発のための迅速なサービス指向開発をサポートしている。Ensemble は、カスタムコードとグラフィカルモデリングを統合することができる点で競合との差別化がなされ、一番困難なコンプライアンスと統合問題を解決することができる。

永続オブジェクトエンジン: Ensemble は、分散型で、高速で拡張性に非常にすぐれ、SQL に準拠したオブジェクトデータベースを持っており、リレーショナルデータベースでよくあるコストやオーバーヘッドなしに、メタデータ、メッセージ、プロセス状況情報の管理と格納が行える。組織は、検証や BAM(ビジネスアクティビティモニタリング)、長期ビジネスプロセスの信頼性や回復のために、ライブおよび処理済みのメッセージへのリアルタイムアクセスができると同時に、オブジェクト技術の全ての利点を享受できる。

統一サービスアーキテクチャ: これまでのコンプライアンスソリューションを最適化し拡張できるのは、Ensemble の統一サービスアーキテクチャのお陰である。様々なプログラミング言語やデータフォーマットに対する一貫した効率的なオブジェクト表現ができ、再利用可能な .NET または J2EE コンポーネント、Web サービス、XML などの最新の最も有効な開発ツールや技術を使ってレガシデータや機能にアクセスが可能である。J2EE あるいは .NET に特化した製品に縛られる危険性は解消され、最大の柔軟性を得ることができる。

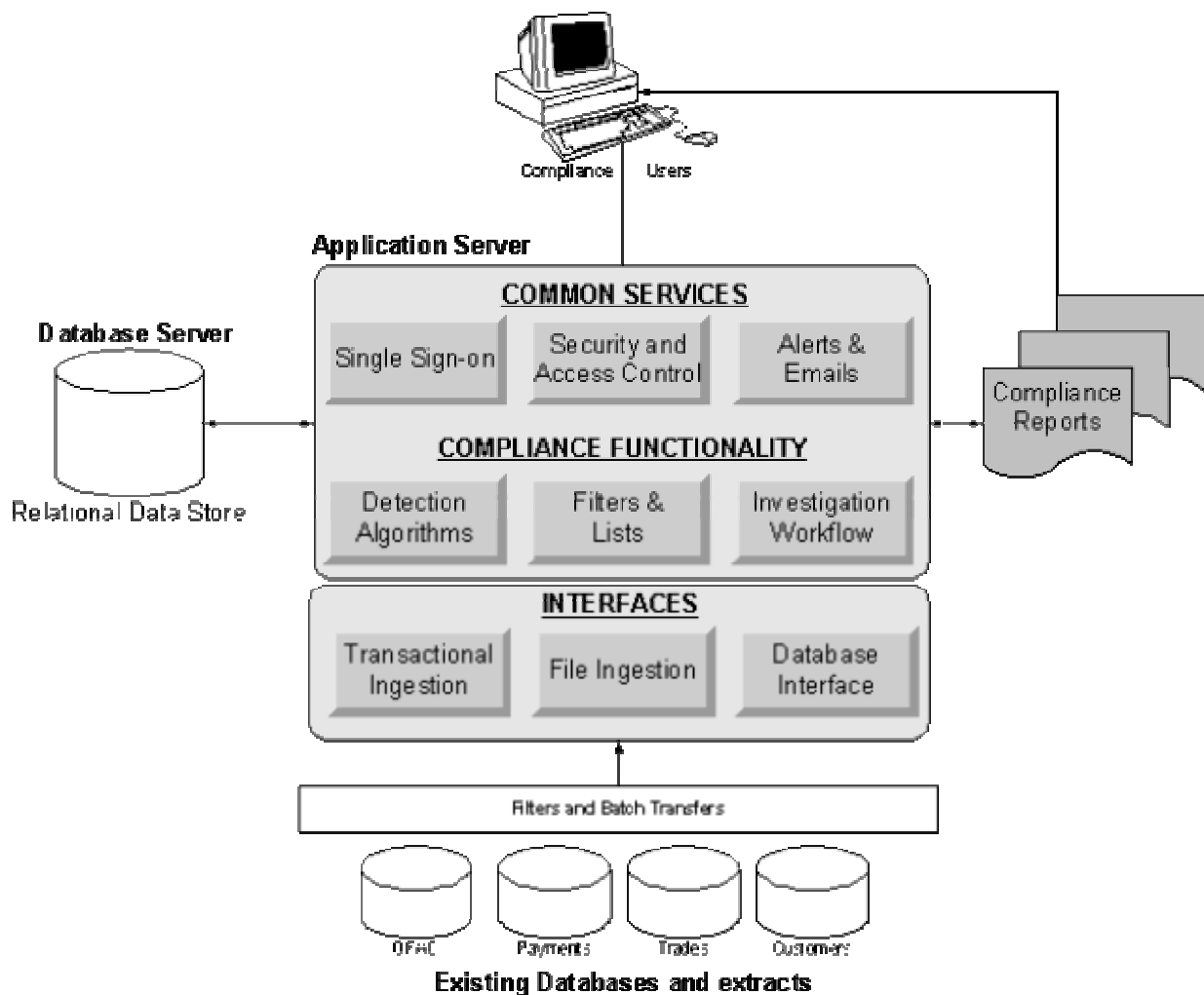
コンプライアンス シナリオ例

金融業界のコンプライアンスソリューションに関し、Ensemble のリアルタイム統合インフラストラクチャによって、戦略的な差別化を図れるかを理解するために、よくあるコンプライアンスシナリオを見てみよう。この例として、様々な金融サービスを提供する DE ホールディングス社について述べる。

DE ホールディングス社は、業界において多くの新規コンプライアンス問題に取り組んでおり、コンプライアンスに対しより戦略的なソリューションが必要であると認識していたが、これまでの投資を活かしつつ、新規要求を満たした新しいソリューションを構築するにはどうすればよいのかは分からなかった。DE ホールディングス社は、anti-money 言語 (AML) レポーティングソリューションを有していた。ユーザフロントエンド、取引や支払いに接続するアダプタ、OFAC リストと社内顧客リスト、疑わしいアクティビティがおきた時に E メールで対応する部門に通知する警告エンジン、疑わしいアクティビティの検出アルゴリズムや投資プロセス管理のためのワークフロー機能など含むプロセス管理ソリューションを必要としていた。

DE ホールディングス社は、ベンダが提供する Java ベースのソリューションを購入した。社内取引システムと同様、OFAC リストや社内顧客データベースに接続するために、ある程度のカスタムコーディングは必要であった。他の多くのソリューションと同様、トランザクションにアクセスするには、バッチプロセスが必要であった。システムは、疑わしいアクティビティが起こった後でしか警告を発しないので、その価値には限界があった(図1参照)。

図1 - 基本 AML ソリューション

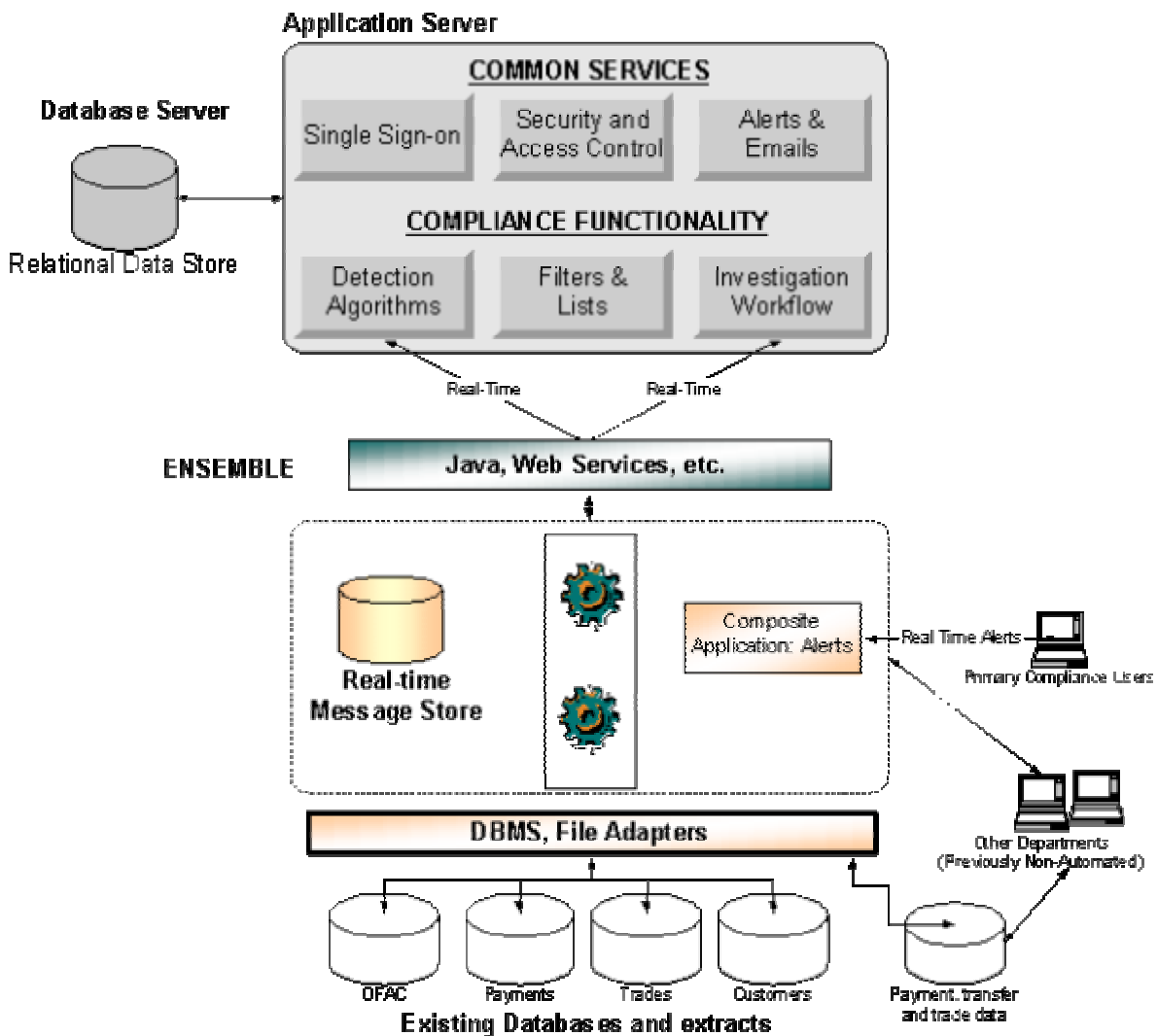


このソリューションは、初期の要求には合致しているが、DE ホールディングス社では、例外が起こるとすぐに分かるよう、リアルタイムのソリューションが必要であった。さらに、すべての部門は、初期ソリューションに含まれているわけではなかった。その規模が自動化ソリューションではコストが見合わないため、小規模な部門は手動でチェックする場合もあった。

Ensemble の迅速な統合機能を使い、既存の AML ソリューションを最大限利用して、リアルタイム警告が可能なコンポジットアプリケーションを開発した。新しい警告メカニズムは、リアルタイムデータに基づき疑わしいアクティビティを特定することができた。疑わしいアクティビティは、それらが起こる基のデータベースおよびアプリケーションにフィードバックされた。双方向コミュニケーションは、Ensemble のリアルタイムメッセージエンジンによって可能となった。

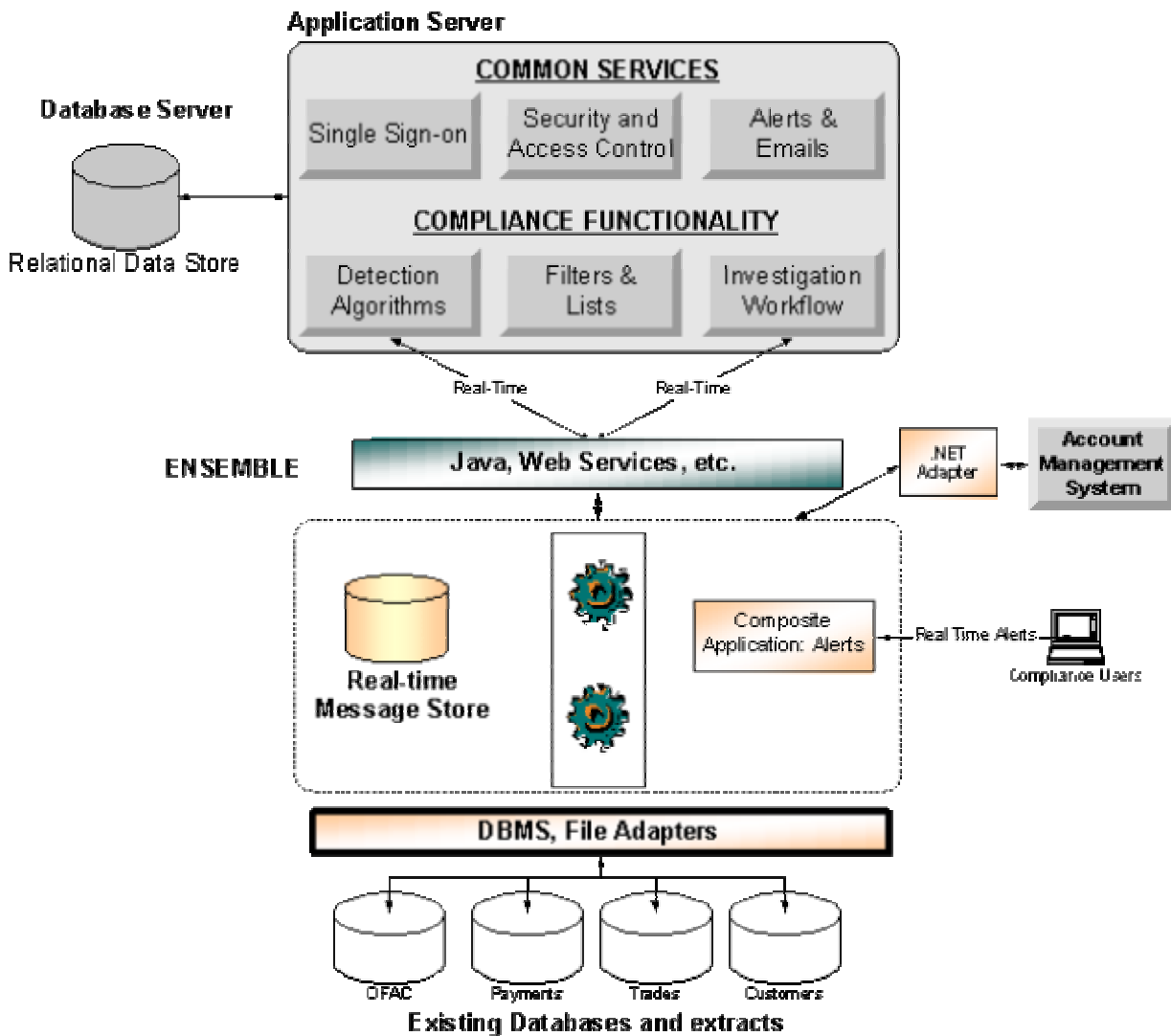
(初期ソリューションでサポートされていない) 手動チェックを行っていたこれらの部門は、リアルタイムストラクチャにその情報を単純に送信することで自動化ソリューションに統合された。(図2 参照)

図2 - AML インフラに追加されたリアルタイム警告



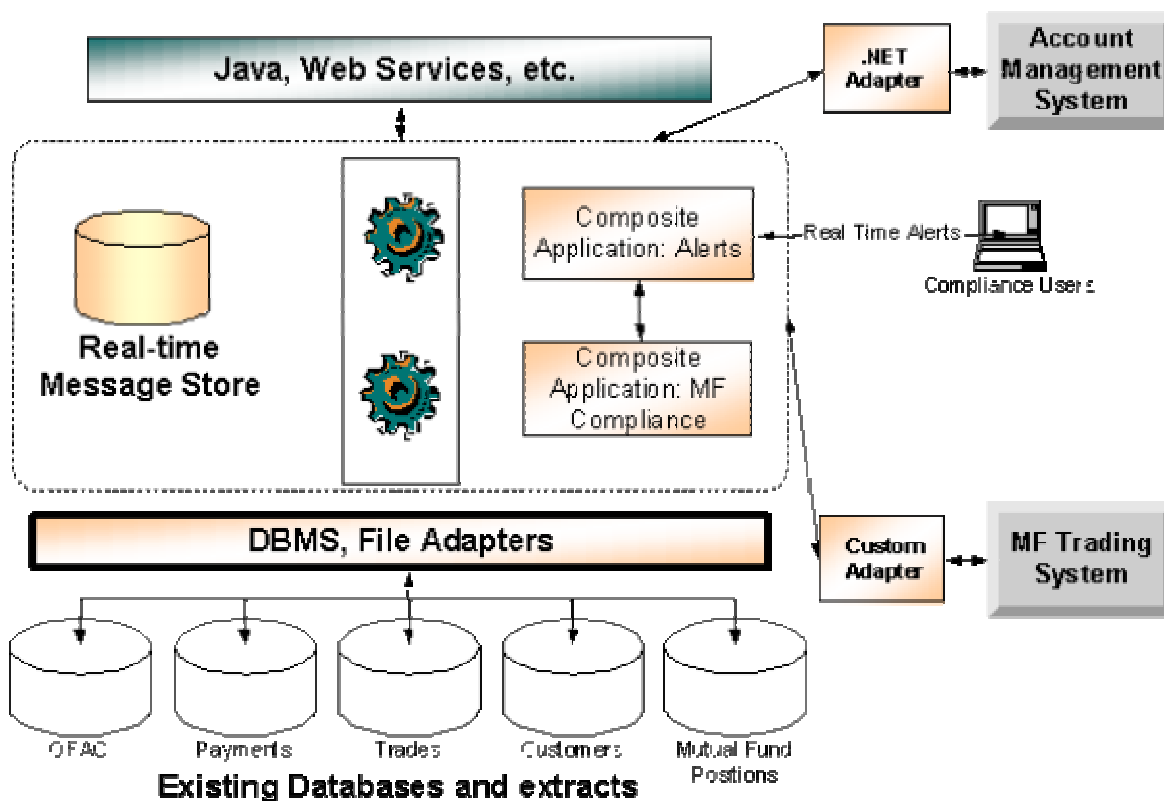
2003年10月に、セクション236に追加条項として、金融サービス機関はCustomer Identification Program (顧客特定プログラム)を加える要求があった。これらのプログラムは、新規口座開設時に、疑わしいテロリストリストに照合して顧客名を確認する義務を含む顧客の特定とドキュメントが必要となった。DEホールディングス社の仮想事例では、現行の顧客特定プロセスとプログラム(.NETプラットフォームによって実装)は、Ensembleの統一サービスアーキテクチャを使って、リアルタイムコンプライアンスチェックに統合された。Ensembleのアプリケーション開発機能と永続オブジェクトエンジンにより、こうしたチェックはリアルタイムに行われ、既存の警告インフラに統合された。(図3参照)

図3 - Customer Identification Program との統合



その後すぐに、DEホールディングス社は、ミューチャルファンドと仲介スキandalに関するSECの規制を予測し、新規取引規定を導入することを決定した。独自のインターフェース、フィルタリング、アダプターフレームワークをもつ取引コンプライアンスエンジンを構築するのではなく、Ensembleの統一サービスアーキテクチャにより、取引コンプライアンスソリューションに必要な新しい機能を開発する能力を提供しながら、既にあるコンプライアンスソリューションの資産を活用した。ミューチャルファンド取引インフラのカスタムアダプタを設計することで、リアルタイム警告が生成され、事前に非コンプライアンストランザクションを停止することができた。(図4参照)

図4 - ミューチャルファンド取引コンプライアンスモジュール



結 論

何かをやり遂げ、日々関わっている全てのベース、全ての問題を処理し、テスト時間に見合う何かを作り出せるということは、素晴らしいことだ。残念ながら、コンプライアンスソリューションは、そうした考えが当てはまらない分野の1つである。その生来の特徴から、規制へのコンプライアンスと企業統治ソリューションは、継続的に変化する。個々の要求に応えることは、困難から企業を解放し、素早い勝利をもたらす助けとなるかもしれないが、長期的な運用をみると、満足できるものでなくなる。今日の成功企業は、コンプライアンスの問題に対し、戦術的(素早い)勝利だが、新規規制が導入されたとき、あるいは、既存のものが変更されたとき、簡単に最適化できる戦略的なフレームワークを重要なゴールとして取り組んでいる。

結果として、規制は継続的に増えかつ変更されることから、よいコンプライアンスソリューションは、拡張性があり、かつ柔軟でなければならない。コスト低減を維持するには、迅速な統合プラットフォームは、最高水準のコンプライアンスソリューションにとっては本質的な基盤である。多くの企業は、データを検索し、事後レポートを生成する個々のソリューションを開発・導入し、今ある規制には応えている。こうしたソリューションは、しばしば特定の部門に限定され、コンプライアンスに対する企業全体としての視点に欠ける。広範なコンプライアンスの中身に統合しなければ、実質上、見た目はよいが、先のないソリューションとなっている。

Ensemble を使えば、こうした個々のソリューションを、リアルタイムにアクティビティをモニタする利用拡張ができ、将来の規制に反するアクティビティをプロアクティブに避けることができる。

Ensemble はユニークな製品で、カスタムシステムとベンダパッケージへの投資を活用し、企業が完全なリアルタイムコンプライアンスソリューションを構築することができる。既存ベンダシステムの拡張、カスタムコンプライアンスソリューションの構築、あるい

は、既存コンプライアンスパッケージの共通フレームワークへの統合をするにしろ、Ensemble は最初から、こうした問題を解決し、リアルタイムのデータにアクセスができるように設計されている。

* 本白書は、米国インターシステムズ社の“Ensemble and Real-Time Compliance Solutions”の日本語訳です。不明な点は、英文本文にてご確認ください。

インターシステムズジャパン株式会社
<http://www.intersystems.co.jp>